

1 これからの防除について

○7月中旬以降、ハダニ類が急増しています。ハダニ類が発生している園地は、ダニオーテフロアブル（2,000倍、前日）を、記載の散布日を待たず速やかに散布してください。

○これからの防除は、収穫期間近あるいは収穫期間中となるので、農薬の使用時期（収穫前日数）に十分注意してください。周囲の収穫園にも気を配りましょう（「香麗」や「なつしずく」などの早生品種にも注意してください）。

○使用時期が「前日」のものは散布後24時間、「3日」のものは散布後72時間収穫できません。

回数	散布月日	薬剤名と希釈倍数	使用時期 (収穫前日数)	散布量	主な対象病害虫	防除実施日 (自己記入)
	7月23日 ～8月3日頃	コンフューザーN	50本/10a		リンゴコカモンハマキ、モモシクイガ、ナシヒメシクイ、チャハマキ、チャノコカモンハマキ、リンゴモンハマキ、	
	ハマキムシ類の発生が多いので、全園地・園地全体に必ず設置してください！					
17	7月25～27日	オーソサイド水和剤 80 1,000倍 (収穫 72 時間前まで) アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍	3日 前日	300 リットル	黒星病、輪紋病 シンクイムシ類、ケムシ類、カメムシ類	
特散	7月30日 ～8月4日	<u>ダニオーテフロアブル</u> 2,000倍 (収穫 24 時間前まで)	前日	<u>400</u> リットル	<u>ハダニ類</u>	
●<u>ハダニ類がすでに発生している園地は、記載の散布日を待たず速やかに散布してください</u>。 ●ダニオーテフロアブルの散布が、17 回目防除予定日と重なる場合は、ダニオーテフロアブルの散布を優先し、3日以上あけてから 17 回目防除を実施してください。 ●ダニオーテフロアブル散布後にハダニ類が再発生した場合は、コロマイト水和剤（2,000 倍、収穫 24 時間前まで）を単剤で散布してください。						
18	9月上旬頃 「幸水」 収穫終了後	ナリア WDG 2,000倍 (収穫 24 時間前まで)	前日	300 リットル	黒星病	
●防除日の詳細は、「幸水」の収穫状況を見極めて決定し、8月下旬頃にお知らせします。						

※シンクイムシ類、ハマキムシ類、カメムシ類の発生園地では、8月中旬頃にアグロスリン水和剤（2,000 倍、収穫 24 時間前まで）を散布してください。

※「幸水」以降の品種にシンクイムシ類、カメムシ類の被害が発生する園地では、18 回目防除にダントツ水溶剤（4,000 倍、収穫 24 時間前まで）を加用してください。

※散布に当たっては、希釈倍数や対象病害虫など、農薬容器のラベルを必ず確認してください。

※こまめに水分を補給するなど、熱中症に留意してください。

※周囲の農作物や住宅等への農薬の飛散に十分注意して散布してください。特に、通学路に面した園地では、登下校時の時間帯を考慮して散布してください。また、防除開始時間は、午前5時以降としてください。

シンクイムシ類、カメムシ類の吸汁被害果が多い場合は、速やかに富山農林振興センター・舟橋(444-4523)、または各地区の防除担当者へご連絡ください。

2 梨の生育状況

- ・果実肥大は、7月17日の無作為調査結果では、「幸水」の横径は64.3mm（前年：60.3mm、平年：63.2mm）と前年より大きく、平年よりやや大きい。

3 黒星病について

表1～4のとおり、いずれの品種も6月中旬に比べ増加傾向にあります。特に、新梢葉・葉柄での発病が増加していますので、薬剤防除を徹底するとともに、り病部位の除去の際には新梢の高い位置に病斑がないか確認してください。

表1 「幸水」における年次別・月別の黒星病発病果そう率（％）

調査日	R 8	R 7	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2	R 元	H30	H27 (多発年)
5/15	4.7	1.3	2.7	34.8	13.6	2.4	0.3	0.8	7.4	—
6/15	1.8	4.0	2.1	22.9	34.4	2.6	0.4	2.8	19.7	45.8
7/17	3.5	7.5	3.5	13.6	8.8	2.1	0.8	0.4	14.9	28.1

表2 「豊水」における年次別・月別の黒星病発病果そう率（％）

調査日	R 8	R 7	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2	R 元	H30	H27 (多発年)
5/15	10.7	0.3	1.0	18.6	7.3	0.6	0.4	0.7	7.8	—
6/15	2.0	4.3	1.1	17.3	24.4	1.6	1.1	4.6	19.2	42.6
7/17	4.3	4.9	2.5	9.0	7.8	1.9	1.3	1.1	17.3	28.8

表3 「あきづき」における年次別・月別の黒星病発病果そう率（％）

調査日	R 8	R 7	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2	R 元	H30	H27 (多発年)
5/15	10.5	0.0	1.0	8.3	0.5	1.0	0.0	0.5	2.5	—
6/15	0.7	0.0	0.0	11.7	5.0	1.2	0.0	0.0	7.0	7.2
7/17	2.3	1.0	0.0	11.2	1.3	1.2	0.0	0.6	11.5	21.4

表4 「新高」における年次別・月別の黒星病発病果そう率（％）

調査日	R 8	R 7	R 6	R 5	R 4	R 3	R 2	R 元	H30	H27 (多発年)
5/15	0.3	0.0	0.0	0.3	0.5	0.0	0.0	0.0	1.4	—
6/15	0.3	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.7	4.0	31.3
7/17	0.3	0.5	0.0	2.8	0.8	0.0	0.0	2.0	4.4	24.0

4 除草剤の使用基準について

除草剤の使用に当たっては、下記の使用基準を遵守してください。

- （1）収穫前日まで使用可能：バスタ液剤（年3回以内）、プリグロックスL（年5回以内）
- （2）収穫7日前日まで使用可能：ラウンドアップマックスロード、サンフーロン液剤、
草枯らしMIC(グリホサートを含む農薬は合わせて年3回以内)

非農耕地用の除草剤を梨園地内や畦畔等には絶対に使用しないでください。